

苫小牧市教育委員会会議録

会 議 区 分	苫小牧市教育委員会 第 8 回 定例委員会
日 時	令和4年8月19日 自 14時00分 至 15時45分
場 所	第2庁舎1階会議室
出席委員	教 育 長 福 原 功 委 員 佐 藤 郁 子 委 員 齋 藤 智 子 委 員 岡 田 秀 樹 委 員 高 橋 憲 司
欠 席 委 員	
会議録署名委員	佐 藤 郁 子 委員
会議録作成職員	総務企画課主事 竹 中 響 紀
事務局職員	教 育 部 長 山 口 朋 史 教 育 部 次 長 山 地 吉 明 教 育 部 次 長 齋 藤 貴 志 教 育 部 参 事 池 田 健 人 教 育 部 参 事 桑 島 久 典 学 校 教 育 課 長 神 保 英 士 総 務 企 画 課 長 補 佐 猿 田 秀 一 総 務 企 画 課 主 査 安 藤 龍 慧 総 務 企 画 課 主 査 矢 部 妙 子 総 務 企 画 課 主 事 竹 中 響 紀
会 議 案 件	別紙のとおり
会議の経過概要	別紙のとおり

1	委員会開会の宣言（福原教育長）・・・14時00分
2	会議録署名委員の指名（佐藤郁子委員）
3	会議録の承認
	（福原教育長） 第7回定例教育委員会（令和4年7月22日開催）の会議録について、このとおり調製することとしてよろしいでしょうか。
	（一同「はい」の声）
	-会議録どおり承認-
4	教育長の報告
	（福原教育長） 夏休みも残すところ1週間を切ったところでございますが、新型コロナウイルス感染症の現状につきましては、第7波の収束が見通せない状況が続いており、市内では連日100人を超える陽性者が発生し、感染症病床には高齢者を中心に多くの陽性者が入院しております。一方で、行動制限措置が取られていない状況から、感染対策の徹底を図りながら「とまこまい港まつり」が3年振りに開催されるなど、コロナ禍の中、夏休み期間中に各種イベントなどが行われておりますが、25日には全ての学校で始業式が行えるよう、引き続き、感染拡大防止の徹底に努めるようお願いをしているところでございます。
	8月20日から22日まで苫小牧市総合体育館を会場に、令和4年度全国中学校体育大会第53回全国中学校卓球大会が開催されます。全国から39校114人の中学

生が本市に集まり、熱戦を繰り広げられますが、本大会が無事に終了されることを祈るとともに、全国各地域で開催されている他の種目も含め参加している中学生の活躍を期待しております。

先月の教育委員会議で、令和4年度苫小牧市統一学力検査の結果と考察の公表について説明をさせていただきましたが、7月28日には、道教委から令和4年度全国学力・学習状況調査結果の公表がありました。本調査の本市の結果の考察については、この後の議案でご説明いたしますが、道教委の発表では、道内の平均正答率は小学校の3教科（国語・算数・理科）で全国平均との差を縮め、小学校の理科、中学校の国語と理科でほぼ全国平均並みとなったこと、授業における端末やICT機器の使用率は全国平均以上、一方で、1日当たりの学習時間は減少傾向にあり、ゲームやスマートフォンによるSNS・動画の視聴時間が全国平均を上回っているとのことでございます。また、道内児童生徒の記述式問題の平均正答率が低い傾向が続いているとの現状認識もあり、道教委の倉本教育長は、確かな学力を身に付け、一人一人が自分の良さや可能性を伸ばすことができるよう、小学校と中学校が連携した取組を一層充実させ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現するために、教育にかかわる全ての人たちが一体となった学力向上の取組を進めていくとの考えが示されたところでございます。

次に、市議会のお話をさせていただきます。第24回市議会定例会が9月2日から15日までの期間で予定をされています。今定例会は、市長選終了後最初の定例会であり、市長公約に基づき4年間で取り組む基本政策について、市長から「市政に臨む基本方針」として発表があり、この基本方針に対し、各会派の代表質問で質疑が行われます。教育行政関係としては、苫小牧市学校教育推進計画の策定や不登校対策の強化、植苗小中学校の義務教育学校化のほか、まちの国際化や文化芸術振興などが含まれており、市教委といたしましては、この基本方針を踏まえ、今の時代に合った考え方、方向性などをしっかりと持って、対応してまいります。

次に、本市は今年、苫小牧市非核平和都市条例施行20周年を迎え、様々な記念事

業が行われておりますが、3年振りに中学生広島派遣事業が行われ、中学2年生2名、
3年生3名の5名が8月1日から3日間広島を訪問し、平和記念公園、平和記念資料
館、本川小学校の訪問、語り部の講話拝聴など、平和の尊さを学ぶ貴重な機会を体験
されました。15日には、本市の平和祈念式典において、広島派遣の体験感想文と平
和の誓いを発表したところでございます。なお、21日まで苫小牧文化交流センター
(アイビー・プラザ)では、広島市と本市の共催で「ヒロシマ原爆資料展」を開催し
ており、残り少ない期間ではありますが、是非、足を運んでいただきたいと思いを。
最後に、その他として、7月28日に第95回日本学生氷上選手権大会スケート競
技会(通称インカレ)第1回苫小牧市実行委員会が開催されました。開催日程を令和
5年1月5日から7日とし、開催競技はスピードスケート、フィギュアスケートの2
種目でございます。アイスホッケーの聖地である本市ではございますが、様々な事情
から、アイスホッケー競技は本州で開催されるとのことでございます。日本学生氷上
連盟の主催、苫小牧市の共催に、市教委も後援しており、会長に岩倉市長、私が副会
長を務めるとともに、教育委員の皆さんには参与に就任いただいております。氷都と
まこまいとして、多くの大学生が集まる本大会の成功にご協力をお願いいたします。
報告は以上ですが、何かご質問等ございませんか。
(一同「なし」の声)
5 議 案
第1号 令和4年全国学力・学習状況調査結果の考察と公表について
(教育部池田参事) -令和4年全国学力・学習状況調査結果の考察と公表について
説明-

(福原教育長) 質疑に付します。何かございませんか。
(高橋委員) 42ページの先ほどご説明いただいた、学力向上に向けた取組の中で「学習方法等を具体例を挙げながら教えた」とありますが、教育委員会として具体的な取組の通知を行ったのでしょうか。
(教育部池田参事) 家庭学習の取組については基本的に家庭での学習ですので、学校が過度に入りすぎないことが大切でもあります。家庭と学校が協力し合うというスタンスで基本的には各学校に任せてはおりますが、読書活動や国語の漢字、算数数学の計算問題等は、時間を決めて継続して行うことを推奨しており、家庭学習の時間としては各学年×10分プラス10分、例えば小学1年生であれば10分プラス10分の20分、中学校1年生であれば70分プラス10分の80分というような、基本的な時間を提示し、各学校で足並みが揃うように仲立ちのお願いを、教育委員会の方からしております。
(高橋委員) はい。わかりました。
把握しているかわからないのですが、学校以外での塾やセミナー等と家庭での学習時間を比較し、全国的に塾に通っている子が多いなどのデータを取られているのでしょうか。
(教育部池田参事) 例えば17ページの設問21の学校の授業以外の学習時間については、家庭学習や塾での勉強時間も含んでおり、家庭学習と学習塾を分けて考えているわけではないというデータがとられております。
(高橋委員) 家庭学習以外も加味している可能性が高いということですね。
ありがとうございました。
(齋藤委員) スマートフォンを使う時間が多い傾向にあることは、本市だけでなくどこの市でも大きな課題になっていると思います。家庭の方針もありますので、一概に縛ることはできませんが、来年度に向けてどのような対策をしていけばよいか、私自身も悩むところではあります。他の市などで何か事例などはあるのでしょうか。
(教育部池田参事) 非常に参考になるような先進事例は今のところありません。全

<p>道的にもこの傾向が強く、非常に頭を捻らせている状態です。さらにはスマホの所持率も16ページの設問4の令和4年の回答で持っていないと答えた方は15%、つまり85%はスマホ等を使用しており、中学校に関しては33ページの設問4で持っていないと回答した方は5%くらいでした。もう持たせないという時代ではなく、しっかりと有効な使い方や自分をコントロールし、よりよい生活の一部にするための道具として、どう付き合っていくかの指導が家庭や学校などなところと連携していく必要があると思います。しかし、まだ準備が整っていないため、この結果を踏まえながら研究をしていきたいと思っています。</p>
<p>(佐藤委員) 2ページ、4ページの分析と考察のところ、無回答率が17%となっており、課題があるということでしたが、この結果は増加傾向にあるのでしょうか。また、前回の委員会でもお話ししておりましたが、自分の答えをまとめる力、いわゆるコミュニケーション能力に直結することですので、まとめ上げることの大切さを結果報告として、児童たちに伝える機会はあるのでしょうか。数学でも問題を読み解く力が重要となっており、国語と関係してくるところがありますので、しっかり読み解く力の大切さや、結果についてもこれから目指しているものを生徒に伝える機会はあるのでしょうか。</p>
<p>(教育部池田参事) 2ページの無回答率が17%という結果は、まだまだ課題は見られますが、ここ数年で無回答率が減少傾向にあり、改善がみられているという状態です。表現する力などのコミュニケーションを含めた言語活動が非常に大切だということについては市教委から学校へ、教師から児童生徒へ伝えてはいますが、本当の意味で子供たちがそれを受け止めて、前向きに取り組んでいるかということに関しましては、まだまだ改善の余地があると思っております。また更に、全国学力学習調査を自分の力を試す検査として、どれだけの子がテストに向けて前向きに取り組み、結果を受け止めているのかも含め、今後も改善の余地がたくさんあるということでございます。例えば、6ページの中学3年生の数学の正答数では、4問以下だった生徒は、全体の4割となっており、中学3年生がこの結果を見た時、今年度の問題が比較的難</p>

<p>易度が高く、難しかった、全国でも14問あったうち7.2問程度しかできないくらい</p>
<p>いの難易度だったと感じると思います。たくさんのページ数があるのにも関わらず、</p>
<p>14問しかないため、長文の問題をしっかりと見て考え、どういうことを聞かれている</p>
<p>かを頭の中で整理して答えに向かっていく、そんな力が大切になっております。非常に</p>
<p>難しく、高い力が求められている中で正答数が4問以下の子が40%くらいいるのが</p>
<p>現状で、上位の子も少ないですが、下位の子がかなりの割合でいます。無回答率1</p>
<p>7%という結果は、そういった子たちを大切にしたい授業、わかる子だけで進める授業</p>
<p>ではなくわからない子も、授業時間で少しでもできるということを味わえるような授</p>
<p>業を、先生方が工夫してくれた結果だと思います。</p>
<p>(齋藤委員) 今のことに関して、今回の数学の問題の出し方や問い方が少し難しか</p>
<p>ったということですが、子供たちに求めることが変わってきていることによって、問</p>
<p>い方も変わってきているのでしょうか。</p>
<p>(教育部池田参事) おっしゃる通りです。単純な回答方法ではなく、その答えから</p>
<p>さらに答えを導き出したり、答えからわかることを話し合ったりすることが求められ</p>
<p>ており、特に総合的な力を育てていくことに力を入れないと、この出題傾向は続いて</p>
<p>いくので、やはり授業改善、それも目の前の子供たちと向き合っていくような授業改</p>
<p>善が必要だということ、中学校の数学が特に表しております。</p>
<p>(岡田委員) 今のことに関して、考えることが楽しくなっていくような授業、例え</p>
<p>ば数学は世界共通語であり、$1 + 1 = 2$というのは日本人も外国人もどちらにも通じ</p>
<p>るものです。そういった楽しみ方が先生から生徒へ伝わったらいいなと思います。</p>
<p>(教育部池田参事) 算数数学に限らず、楽しい授業は子供たちにとって非常に魅力</p>
<p>のある授業です。それを先生方も目指しているとは思いますが、やはり楽しい授業の</p>
<p>前提になるのは分かる授業だと思いますので、わかるから楽しい、楽しいからできる</p>
<p>というそんな授業になるようにこれからも頑張っていきたいと思います。</p>
<p>(高橋委員) 2点あります。1点目は18ページ、35ページの新聞を読んでいる</p>
<p>という項目で令和3年度までは4項目だったのが、令和4年度の設問項目がグラフの</p>

結果を見ると5項目になっておりますが、項目自体は4項目になっているので、残り1項目の内容を教えてください。

2点目はICTの考察のところ。タブレットやインターネットの使い方を年々理解してきて、どのように使うのかがわかってきていると思います。勉強での活用と勉強以外での活用で大切なのが、ゲームに使うよりはこういうことで勉強になるということに気が付ける子や、動画のもっと知識的なものや技術的なものを面白いと思う子供たちを育てることだと思っています。全国でこのような評価の仕方をするのであればそれも一つのやり方だと思いますが、それがこの評価では見きれないので、ぜひ子供たちが今、何に興味があって、どんな事にドキドキわくわくしているのか、それを子供の成長に繋げるにはどのようなことが必要なのか、勉強やゲームなどの項目だけではなかなか表せないですが、検討していただきたいです。デジタルコンテンツや知識は我々の時代ではお金を払っても得られなかったものです。すごく多様化していていろいろなことが学べるので、そういった良い事例があればぜひ、そちらの方も子供たちに教えていただければ、社会に出ても非常に役立つ知識に繋がると思うのですが、いかがでしょうか。

(教育部池田参事) 1点目のグラフの結果については、令和3年度と同様の4項目が正しいものとなっております。正しい結果については後日差し替えさせていただきます。

2点目に関しまして、動画等も非常に有効なコンテンツであり、ユーチューブも自分のタイミングで見ることができるので、特にスポーツをやっている子は自分の姿とユーチューブの素敵なプロの姿を見比べながら、自分の姿をより良いものにしていくというような使い方をしていると思います。そんな中で勉強に限らず、そういった有効的な使い方も教育の中に効果的に位置付けていくということがこれから大事になってくると思いますので、これからの課題だと思っています。以上でございます。

(福原教育長) 他に何かございませんか。

(一同「なし」の声)

(福原教育長) 質疑がないようであれば、原案どおり決定することによろしいでしょうか。

(一同「はい」の声)

(福原教育長) それでは、議案第1号は原案どおり決定いたしました。

第2号 令和4年度 教育委員会点検・評価報告書について

(教育部斎藤次長) -令和4年度 教育委員会点検・評価報告書について説明-

(福原教育長) 質疑に付します。何かございませんか。

(佐藤委員) 私どもの活動についてご意見をいただきまして、誠にありがたいと思っております。その他の教育委員会の考え方に「令和5年度の評価から、目標値に対する達成度を表記してまいります」とあります。これは見える化や数値化が求められていることが関係しているかと思いますが、非常に難しく、わかりにくいことだと思いますので、その達成度の考え方や表し方をどのようにお考えなのか教えていただけますでしょうか。

(教育部斎藤次長) 今ご指摘いただいた通り、非常に幅広い指標になりますし、数字だけで判断できるものは限られておりますので、学校教育の分野全てがはまるような評価は難しいと認識しております。毎回点検評価で数字を示させていただいていますが、前年と比較した結果になっていると思います。求められているのは目標値、例えば学力でいうと、かねてから全国平均を目指すという目標がはっきりしていますので、一つ一つ前年との比較する方法もよいかとは思いますが、目標を5年間において、

それに向けて少しずつ伸びているかどうかを評価していく方が、やはりご意見をいただいた趣旨に沿うのかなと考えておりますので、このあとも今年度中にいろいろと皆様とご相談させていただきながら、指標の設定を考えていければと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

(佐藤委員) ありがとうございます。

(福原教育長) 他に何かございませんか。

(一同「なし」の声)

(福原教育長) 質疑がないようであれば、原案どおり決定することによろしいでしょうか。

(一同「はい」の声)

(福原教育長) それでは、議案第2号は原案どおり決定いたしました。

第3号 令和5年度使用 教科用図書の採択について

(学校教育課長) -令和5年度使用 教科用図書の採択について説明-

(福原教育長) それではまず小学校及び中学校用教科用図書の審議に入ります。

小学校用、中学校用 共に今年度使用している教科書を令和5年度も引き続き採択によろしいでしょうか。

(一同「はい」の声)

<p>(福原教育長) 次に、特別支援学級については、今回追加された6冊の一般図書も含めて、全て採択するという事によろしいですか。</p>
<p>(一同「はい」の声)</p>
<p>(福原教育長) それでは、原案のとおり採択いたします。</p>
<p>最後に事務局から連絡事項等がありましたら、お願いいたします。</p>
<p>(学校教育課長) それでは確認をさせていただきます。令和5年度から使用する教科書につきましては、小学校用、中学校用、今年度使用した昨年度と同様の引き続き使用することといたします。特別支援学級用の追加された一般図書につきましても、全て採択といたします。採択一覧、採択理由に関しましては、9月2日金曜日からホームページで公表いたします。また決定した教科書につきましては、教育・福祉センター4階及び、中央図書館2階で閲覧が可能となります。申し訳ないですが、今回の教育委員会終了後、皆様には採択の理由書という書類にサインをいただくこととなりますので、担当がお伺い次第、ご対応をお願いいたします。以上でございます。</p>
<p>(福原教育長) それでは、以上で、議案第3号の審議を終了いたします。</p>
<p>第4号 令和4年度苫小牧市文化賞・文化奨励賞の選考について</p>
<p>(福原教育長) 次に、議案第4号についてですが、人事案件でございますので、教育委員会会議規則第21条の規定により秘密会とし、この場合、本会議の日程の最後に審議したいと思っておりますが、よろしいでしょうか。</p>
<p>(一同「はい」の声)</p>

<p>(福原教育長) それでは、議案第4号を秘密会とし、本会議の日程の最後に審議することに決定いたしました。</p>
<p>第5号 令和4年度教育費補正予算について</p>
<p>(福原教育長) 次に、議案第5号についてですが、市議会にて審議される案件で、招集告示前に公開することは適切でないと考えられますことから、教育委員会会議規則第21条の規定により秘密会とし、本会議の日程の最後に審議したいと思いますが、よろしいでしょうか？</p>
<p>(一同「はい」の声)</p>
<p>(福原教育長) それでは、議案第5号を秘密会とし、本会議の日程の最後に審議することに決定いたしました。</p>
<p>6 報告・協議</p>
<p>報告(1) 教育委員会職員の人事異動に係る協議について</p>
<p>(福原教育長) 次に、議案第5号についてですが、人事案件でございますので、教育委員会会議規則第21条の規定により秘密会とし、この場合、本会議の日程の最後に審議したいと思いますが、よろしいでしょうか。</p>
<p>(一同「はい」の声)</p>

<p>(福原教育長) それでは、議案第5号を秘密会とし、本会議の日程の最後に審議することに決定いたしました。</p>
<p>協議(1) 苫小牧市教育大綱の改定について</p>
<p>(教育部斎藤次長) -苫小牧市教育大綱の改定について説明-</p>
<p>(福原教育長) 質疑に付します。何かございませんか。</p>
<p>(佐藤委員) 6ページの高等教育・家庭教育・幼児教育等の分野の強化を図るところについて、7ページの基本方針の柱の見直しの柱の2「学びをつむぐ連携・協働の推進」という理解でよろしいでしょうか。高等教育・家庭教育・幼児教育等の分野の強化として受け止めてよろしいのでしょうか。</p>
<p>(教育部斎藤次長) どのような書き方になるかはこれからの話になるのですが、教育というものの全体では当然関連してくる、全て連携してくるということで教育大綱という市の考え方としては全て入ってくるものだと考えております。その中で教育委員会としては義務教育と幼稚園の連携という部分をやりますし、本市としては総合的な計画の中でしっかり取り組んでいくというような、教育にかかわる全般をまとめているのが教育大綱だということですので、その辺は市と連携してやっていきたいと思えます。</p>
<p>(佐藤委員) ありがとうございます。</p>
<p>(高橋委員) 確認なのですが、8ページの改訂スケジュールにある通り、我々の教育委員会の立場としては8月の会議では方向性のみを協議し、あとは総合教育会議で図るということでしょうか。</p>
<p>(教育部斎藤次長) はい。</p>
<p>(高橋委員) 最終的には7ページの素案の策定の方針の中身が一番重要になるという考えでよろしいでしょうか。</p>

<p>(教育部斎藤次長) はい。</p>
<p>(高橋委員) そのことを踏まえてなのですが、7ページの右側に書かれている教育理念の見直しは行わない点や、期間を総合計画に合わせるという点に関しての考え方はわかったのですが、基本方針の柱の見直しの内容が左の内容とリンクしていないように思うので、考え方を教えていただけないでしょうか。</p>
<p>(教育部斎藤次長) 今参酌することなく国の基本方針がこのような形で出てはいますが、それをどのように細かく政策に落とし込んでいくのか、市の教育大綱に落とし込んでいくのかについては、9月の素案で初めてお示しすることになる予定ですので、今の段階ではかなり細かいところまで、こちらとしても考えを持っているということではありません。ただ、策定にあたって今の段階でこういったことを入れておく方がいいのではないか、こういった文言が必要なのではないか、などのご意見があれば聞いておきたいですし、その辺も整理しながら素案を策定したいといったところで、申し訳ないですが、今の段階で細かい考えはないということでございます。</p>
<p>(高橋委員) はい。ありがとうございました。</p>
<p>(福原教育長) 改訂スケジュールの中の推進企画会議というのはどういう構成なのでしょうか。</p>
<p>(教育部斎藤次長) 教育推進企画会議は校長会の役員の方々と、我々教育委員会事務局で会議議題に対し、協議します。実際には教育現場にいろいろな取組をしてもらうので、学校現場の意見を聞いて策定したいということから、その辺りをしっかり固めていくための校長会と教育委員会事務局との会議です。</p>
<p>(福原教育長) 12月の総合教育会議で次の教育大綱が決定し、議会に報告をするということで、現在は9月で総合教育会議もありますが、教育委員会議の中でも色々な議論をするということでしょうか。</p>
<p>(教育部斎藤次長) 素案の出来具合にもよるのですが、最初の9月の段階でおそらく色々な意見が出てくると思いますので、そういった修正案というのはこの12月までの間に必要に応じて招集させていただいたり、持ち回りで確認させていただいたり、</p>

いろいろな手段はありますが、2回の会議だけで決定するものとは考えておりません。

(高橋委員) 7ページの柱の1の「社会で生きる学びの実現」と3の「学びをつなぐ地域社会の実現」というのが同じような内容に思うのですが、どのような意味合いがあるのでしょうか。

(教育部斎藤次長) まだ決定しているわけではありませんが、今ある柱の5本のうち5本目の柱が生涯学習、社会教育についての柱となっておりますので、この柱の3本目は生涯学習をイメージしております。1、2は学校教育、3は生涯学習、社会教育というようなイメージでこの後作りこんでいく形になるかと思えます。

(高橋委員) はい。ありがとうございます。

言葉の捉え方で学びを同じものとして捉えてしまうと、おかしくなるのかなと思いますので、正しい言葉で誤解のないように作られることを期待しています。

(福原教育長) 教育方針は5本から3本になるのですか。

(教育部斎藤次長) はい。北海道教育委員会がこの後作る北海道教育委員会の推進計画も柱3本にまとまってきますので、我々もそれに合わせる形で柱3本にしたいと考えています。今実際に3番と4番目の柱が高橋委員からご指摘いただいたように、ほとんど同じような意味合いの事柄が入っているので、もう少し整理をして、政策が重複しないようにしたいと考えております。

(齋藤委員) あくまでも今日このような感じで3本の柱としてやっていくという意味合いであって、この文言は実際には変わってくるという解釈でよろしいでしょうか。

(教育部斎藤次長) はい。ご指摘の通りこの柱だけを見るとわかりにくいと思いますが、実際にその中身の報告をはめていくとわかるというようにしておきます。

(福原教育長) 他に何かございませんでしょうか。

(一同「なし」の声)

(福原教育長) ないようであれば、協議を終結することとしてよろしいでしょうか。

(一同「はい」の声)

(福原教育長) これより、先ほど秘密会と決定しました議案第4号、議案第5号、報告第1号について審議をいたします。関係者以外は退席をお願いいたします。

(福原教育長) それでは、委員会を再開いたします。なお、議案第4号、議案第5号につきましては原案どおり決定し、報告第1号につきましては、報告どおり終了したことを申し添えます。

7 その他

(福原教育長) 次に、その他でございますが、事務局、委員の皆様を含めて、何かございますか。

(一同「なし」の声)

8 委員会閉会の宣言 (福原教育長)・・・15時45分